さくらぐみ第3・4・5学年国語科学習指導案

町田市立　小山小学校
2026年11月13日（金）5時間目
対象　さくらぐみ第3・4・5学年　5名
指導者　TI主幹教諭　本荘　建史

1　単元名「気持ちと　セリフを　かんがえよう」
　教材名　「ろくべえまってろよ」（灰谷健次郎作・長新太絵）

2　単元の目標
　〇場面の様子がよく伝わるように、声の大きさを工夫して音読することができる。（知識及び技能）
　〇場面の様子に着目して、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像することができる。
（思考力，判断力，表現力等）
　〇友達と力を合わせて困難を乗り越えるお話のよさに気付き、進んで読もうとする。
（学びに向かう力，人間性等）

3　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①　場面の様子（あわてている、応援しているなど）を意識して、声の大きさや速さを変えて音読している。 ②　場面の様子（穴の深さ、焦り、応援の様子など）がよく伝わるように、声の大きさや速さを工夫して音読している。	①　場面の様子を表す言葉やさし絵を手がかりにして、登場人物の行動や気持ちを想像している。 ③　登場人物の行動を基に、その時の気持ちを想像して言葉や動作で表している。	①　友達と力を合わせてろくべえを助けるお話の面白さに気付き、最後まで進んで読もうとしている。 ②　友達と力を合わせて困難を乗り越えるお話のよさに気付き、進んで音読したり感じたことを言葉に表したりして、学習に取り組もうとしている。

4　単元構想
（1）児童について（児童観）
　本学習グループは、3年生1名、4年生1名、5年生3名で構成されている。児童の学習状況は大きく異なり、個別の学習においては、それぞれに合った1年生から2年生程度の教材を学んでいる。また、協働的な学びの実現に向けて、自分の考えを伝えたり相手の考えを受け止めたりしながら各教科の学習を進めている。自分の学び方を振り返り、友達の学びの方の良いところを見つけることはできてはいるが、それを表現することに苦手さがある。
　国語科の本単元においては、物語の世界に入り、「ろくべえを助ける」という共通の思いを言語交流しながら、自分の学び方を振り返り、友達の学び方の良いところを見つけることが予想される。

（2）教材について（学習材観）
　本教材は、深い穴に落ちた犬のろくべえを子どもたちが協力して助ける物語である。場面の移り変わりが明確であり、起承転結の構成がはっきりしているため、事柄の順序を捉えやすい。また、子どもたちが「どうすれば助けられるか」を懸命に考える場面は、児童が自分を重ね合わせやすく、心情理解に適している。
　授業の中で、各場面ごとに「子どもたちは何て言ってるのかな？」と問いかけ、児童の発言を板書していく。全員の発言を確認し、友達の発言を意識させるようにした。自分とは違った考え方があるということに気付き、自分の学び方を振り返られるようにした。

(3) 単元について(単元観)

本単元では、「ろくべえまってろよ」のストーリーと同じように、指導者の「子どもたちは何て言ってるのかな?」という言葉かけで、一人一人が物語の世界に入り込んで登場人物のセリフを考えられるようになる。そうした活動を通して、登場人物に感情移入し、自分たちがろくべえを助けようとがんばっているような気持ちになって読み進めてほしい。自分自身のことや、気持ち、考えを話して伝える力、友達の思いをわかろうとする気持ちを育むために、自分の考えを言葉にして伝える活動を単元計画に設定した。

また、児童が見通しをもって活動できるように、毎時間の学習活動の流れを共通にした。

<学習活動の流れ>

①振り返り:前時間のあらすじや、前の場面での 自分や友達が考えたセリフを思い出す。
②叙述確認:黒板の本文を見て、難しい言葉、何をしたかを確認する。
③音読:気持ちを想像した上で、声の大きさや速さを変えてその場面を音読する。
④セリフと気持ち(本時の中心):本文と拡大挿絵を見ながら「子どもたちは何て言ってるのかな?」の問いかけでセリフを考え、ワークシートに書く。
⑤交流:友達の考えたセリフを聞いて、「だれのどの考えが素敵か」を発表し合う。

5 研究主題に迫るための手だて

【自己理解】

① 自分の考えたことや発言が視覚的に理解できる工夫

・場面ごとに読み取りを行う際に、自分の考えた登場人物のセリフをワークシートに書かせる。発表の際に、そのワークシートを手掛かりに発言させ、指導者は板書を行う。画像に残しておき、毎時間ごとの振り返りの手掛かりにできるようにする。

【他者受容】

①友達の考えたことや発言が視覚的に理解できる工夫

・登場人物になりきって書いたセリフを指導者が板書し、友達の発言を視覚化する。自分とは異なる考えや表現に触れる場面を設定し、振り返りで友達の考えや発言の良さが分かるようにする。

6 単元の指導と評価の計画 (全8時間扱い)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 ○方法
Ⅰ	1	【ろくべえが穴に落ちる】 ・本時の場面を捉える。 ろくべえが深い穴に落ちてしまい、子どもたちが集まってくるところ。 ・セリフと気持ちを考える。 「穴をのぞき込んだ子どもたちは、何て言っているのかな?」 ・子どもの姿(例):「どうしよう!」「大丈夫かなあ」など、びっくりして心配そうなセリフ。 ・考えたことを交流する。	・登場人物の行動や場面の様子に着目して、その時の気持ちを具体的に想像し、セリフを考えられるようにする。 ・想像した気持ちが伝わるように、声の大きさや速さを工夫して音読するように指導する。	・場面の様子、や叙述を基に、登場人物のセリフを想像してワークシートの「吹き出し」に書いたり、気持ちを込めて音読したりしている。 ○活動の様子、ワークシート
	2	【お母さんたちに頼んでみる】 ・本時の場面を捉える。 お母さんたちに助けを求めるけれど、忙しくて相手にしてもらえないところ。 ・セリフと気持ちを考える。	・登場人物の行動や場面の様子に着目して、その時の気持ちを具体的に想像し、セリフを考えられるようにする。 ・想像した気持ちが伝わるよう	・場面の様子、や叙述を基に、登場人物のセリフを想像してワークシートの「吹き出し」に

		「お母さんたちに断られた子どもたちは、何て言っているのかな？」 ・子どもの姿（例）：「ちぇっ、助けてくれないんだ」「自分たちでやるしかないや」など、がっかりしたセリフ。 ・考えたことを交流する。	に、声の大きさや速さを工夫して音読するように指導する。	書いたり、気持ちを込めて音読したりしている。 〇活動の様子、ワークシート
	3	【クッキーを落としてみる】 ・本時の場面を捉える。 ポケットにあったクッキーを穴に落として、ろくべえを元気づけようとするところ。 ・セリフと気持ちを考える。 「クッキーを落としながら、子どもたちは何て言っているのかな？」 ・子どもの姿（例）：「ろくべえ、これ食べて元気出して！」「お腹すいたでしょ」など、ろくべえを励ますセリフ。 ・考えたことを交流する。	・登場人物の行動や場面の様子に着目して、その時の気持ちを具体的に想像し、セリフを考えられるようにする。 ・想像した気持ちが伝わるように、声の大きさや速さを工夫して音読するように指導する。	・場面の様子、や叙述を基に、登場人物のセリフを想像してワークシートの「吹き出し」に書いたり、気持ちを込めて音読したりしている。 〇活動の様子、ワークシート
	4	【シャボン玉を吹いてみる】 ・本時の場面を捉える。 ろくべえを安心させるために、みんなでたくさんのシャボン玉を吹いてあげるところ。 ・セリフと気持ちを考える。 「シャボン玉を見つめるろくべえに、子どもたちは何て言っているのかな？」 ・子どもの姿（例）：「きれいなシャボン玉だよ」「泣かないで、待っててね」など、ろくべえを安心させたいセリフ。 ・考えたことを交流する。	・登場人物の行動や場面の様子に着目して、その時の気持ちを具体的に想像し、セリフを考えられるようにする。 ・想像した気持ちが伝わるように、声の大きさや速さを工夫して音読するように指導する。	・場面の様子、や叙述を基に、登場人物のセリフを想像してワークシートの「吹き出し」に書いたり、気持ちを込めて音読したりしている。 〇活動の様子、ワークシート
	5	【良い方法をひらめく】 ・本時の場面を捉える。 大きな犬を飼っている「えいじくん」を連れてきて、ロープを使う作戦を思いつくところ。 ・セリフと気持ちを考える。 「作戦を思いついた子どもたちは、何て言っているのかな？」 ・子どもの姿（例）：「これなら助けられるぞ！」「えいじくん、ありがとう！」など、ワクワクして希望が見えたセリフ。 ・考えたことを交流する。	・登場人物の行動や場面の様子に着目して、その時の気持ちを具体的に想像し、セリフを考えられるようにする。 ・想像した気持ちが伝わるように、声の大きさや速さを工夫して音読するように指導する。	・場面の様子、や叙述を基に、登場人物のセリフを想像してワークシートの「吹き出し」に書いている。 ・友達の考えたセリフを聞いて、「だれのどの考えが素敵か」を発表できている。 〇活動の様子、ワー

				クシート
	6 本時	【みんなで力を合わせて引っ張る】 ・本時の場面を捉える。 ロープの先につけたカゴにろくべえを乗せ、みんなで「うんとこしょ」と引っ張るところ。 ・セリフと気持ちを考える。 「ロープを一生懸命引っ張りながら、子どもたちは何て言っているのかな?」 ・子どもの姿(例):「重いけど負けないぞ!」「せーの、がんばれ!」など、力を合わせている強いセリフ。 ・考えたことを交流する。	・登場人物の行動や場面の様子に着目して、その時の気持ちを具体的に想像し、セリフを考えられるようにする。 ・想像した気持ちが伝わるように、声の大きさや速さを工夫して音読するように指導する。	・場面の様子、や叙述を基に、登場人物のセリフを想像してワークシートの「吹き出し」に書いている。 ・友達の考えたセリフを聞いて、「だれのどの考えが素敵か」を発表できている。 ○活動の様子、ワークシート
	7	【ろくべえが助かる!】 ・本時の場面を捉える。 ろくべえが穴から飛び出してきて、みんなが大喜びしているところ。 ・セリフと気持ちを考える。 「助かったろくべえをだきしめて、子どもたちは何て言っているのかな?」 ・子どもの姿(例):「よかった~!」「本当によくがんばったね!」など、安心とうれしさでいっぱいのセリフ。 ・考えたことを交流する。	・登場人物の行動や場面の様子に着目して、その時の気持ちを具体的に想像し、セリフを考えられるようにする。 ・想像した気持ちが伝わるように、声の大きさや速さを工夫して音読するように指導する。	・場面の様子、や叙述を基に、登場人物のセリフを想像してワークシートの「吹き出し」に書いている。 ・友達の考えたセリフを聞いて、「だれのどの考えが素敵か」を発表できている。 ○活動の様子、ワークシート
	8	【お話全体のまとめ】 ・本時の場面を捉える。 ろくべえが元気に走り去り、子どもたちも満足して帰っていくお話の最後。 ・セリフと気持ちを考える。 「バイバイするろくべえを見送りながら、子どもたちは何て言っているのかな?」 ・子どもの姿(例):「みんなで力を合わせてよかったね」「また明日ね、ろくべえ」など、達成感に満ちたセリフ。 ・考えたことを交流する。	・登場人物の行動や場面の様子に着目して、その時の気持ちを具体的に想像し、セリフを考えられるようにする。 ・想像した気持ちが伝わるように、声の大きさや速さを工夫して音読するように指導する。	・場面の様子、や叙述を基に、登場人物のセリフを想像してワークシートの「吹き出し」に書いている。 ・友達の考えたセリフを聞いて、「だれのどの考えが素敵か」を発表できている。 ○活動の様子、ワークシート

8 本時の学習（6／8時間）

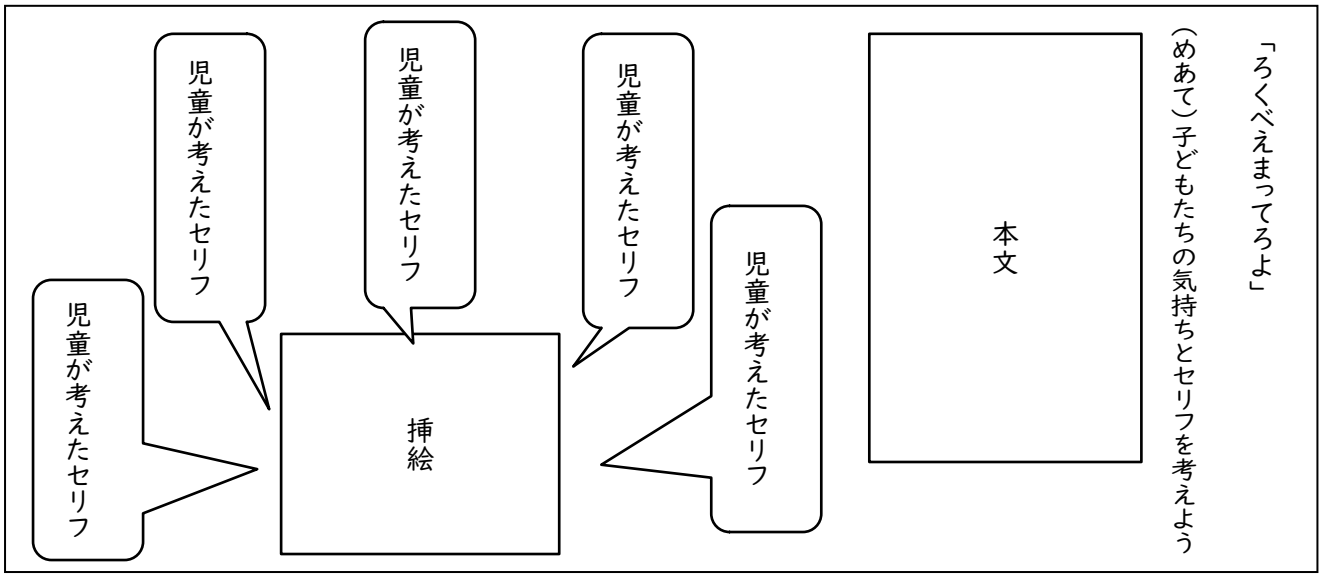
（1）本時のねらい

・ろくべえを助ける子どもたちの気持ちとセリフを考えることができる。

（2）展開

	学習活動	・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
導入	1 前時のふりかえりをする。 ・前時に「えいじくん」のロープ作戦を思いついたことを思い出す。	・前時の板書を見直し、作戦が決まってワクワクしていた子どもたちの気持ちと自分や友達が考えた登場人物のセリフを確かめる。
	子どもたちの気持ちとセリフを考えよう。	
展開	2 本時の場面を捉える。 ・p.20～25の本文を黒板に掲示し、範読する。 ・だれのセリフか、何をしたかを確認する。 3 本時の場面の音読をする。 ・子どもたちになりきって、p.20～25を音読する。 4 登場人物のセリフと気持ちを考える。 自 T「みんなで力を合わせて、一生懸命ロープを引っ張っています。子どもたちは何て言っているのかな?」 ・カゴに乗ったろくべえを、みんなで一生懸命引っ張っている拡大挿絵を黒板に掲示する。 ・ワークシートにセリフを書く。	・「うんとこしょ」などの言葉に着目させ、子どもたちが全力で引っ張っている様子を動作を交えて確認する。 ・想像した気持ちが伝わるように、「声の大きさ」や「力強さ（速さ）」を意識して音読するよう伝える。 自己理解① 自分の考えた登場人物のセリフをワークシートに書かせることで、考えを視覚化し、発表や振り返りの際に活用できるようにする。 ○場面の様子、や叙述を基に、登場人物のセリフを想像してワークシートの「吹き出し」に書いたり、気持ちを込めて音読したりしている。 （ワークシート）
終末	5 お互いの考えを交流する。 他 ・ワークシートをもとに登場人物のセリフを発表する。 ・素敵だと思った友達の考えを発表する。	・「絶対に助けるぞ」「重いけどがんばれ」など、諦めない気持ちが表れているセリフを価値付ける。 ・友達の発表を聞いて「本当のその場にいるみたいだね」と共感を促す。 他者受容① 自分とは異なる考えや表現に触れる場面を設定し、友達の考えや発言の良さが分かるようにする。 ○友達の考えたセリフを聞いて、「だれのどの考えが素敵か」を発表している。（活動の様子）

（3）板書計画


「ろくべえまってろよ」
（めあて）子どもたちの気持ちとセリフを考えよう
本文
挿絵
児童が考えたセリフ
児童が考えたセリフ
児童が考えたセリフ
児童が考えたセリフ
児童が考えたセリフ